鳴り砂だより

吉田東部地区まちづくり協議会

広報誌 No.47

6月

発行日　令和５年 ６月 １日
編　集　吉田東部地区まちづくり協議会
住　所　亘理町吉田字大塚 185
電　話　0223-36-8831
ＦＡＸ　0223-36-8832
Ｅmail　wa.tukuri.yt@ia9.itkeeper.ne.jp
発行責任者　福本　眞

令和５年度　定期総会

令和５年度の定期総会は、役員会の審議で新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から書面表決で行う事となり、代議員・部会員の表決書集計の結果、４月 21 日に全議案過半数の賛成をもって承認されました。

令和５年度　会長挨拶

会長 福本 眞

３年間にわたり多大な影響を与えてきた“新型コロナウイルス”も新年度に入り、大幅に感染者が減少し収束の兆しが見え始めるとともに、各方面での活動が活発になり始めました。

当まち協でも、ポストコロナを見据え「**安全・元気・健康**」の３部会は、ここまで自粛しながらの活動だった行事に新たなアイディアを取り入れ、皆さまに喜んでいただける内容を企画してまいります。

まちづくり協議会の活動は、皆さまの積極的な参加が大切です。少しでも多くの方々の参加を心よりお待ちしています。

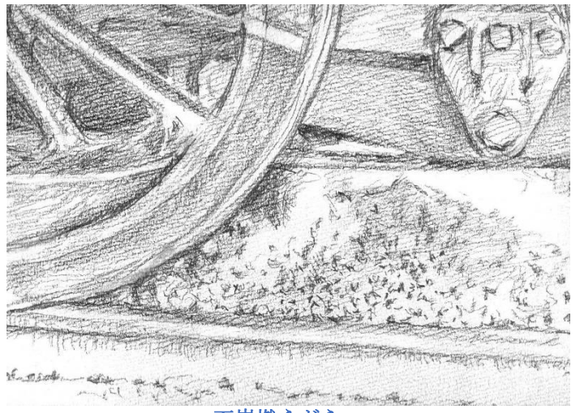
本年度もご支援とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ハマニガナ

ちょこっと昔の浜吉田東

子どもの頃というと、一番印象にあるのは浜吉田駅のことだ。

当時の駅はまさに地域の核であり、すべての中心だった。その頃は跨線橋がないから、上り方面のホームへは線路をまたいで渡った。広い構内には操車場があって、蒸気機関車が停車し、水を積み込んだり、石炭の燃えがらを下ろしたりしていた。物資不足の頃だったから、燃えカスを水で冷やしてコークスを取り出し、家に持ち帰って燃料にした。


石炭燃えがら

思い出としては、相馬野馬追を見に行く進駐軍の兵隊さんを乗せた列車が駅に止まると、子どもたちはチョコレートをねだった。

また、地域の野菜やブドウ、瓜、牛橋のシジミなどを大きな風呂敷に包み、仙台や温泉地へ行商に行くたくましい女性たちの姿があった。

夏には駅前広場が盆踊り会場ともなった。とても賑やかで懐かしい景色だ。こんなふうに、駅はたくさんの人が集まる。駅の近くには運送屋、呉服店、郵便局、お医者さんもあり、とても賑わっていた。大きくなってからは、通学、通勤で汽車に乗り、半世紀以上にわたってお世話になった。

行商のおばちゃん

蒸気機関車

その浜吉田駅、常磐線も震災後しばらくの間不通のままでとても不便だった。だから、線路が復旧され、電車が走るようになった時は本当に嬉しかった。山田　勇さん（昭和15年生まれ）にお話しを伺いました。（絵・文：佐々木）

吉田地区交流センター

４月の人事異動により吉田地区交流センター所長に着任しました、**田中真弓**と申します。

皆さんから吉田地区のことをいろいろと教わりたいと思っています。皆さんのお役に立てるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

Instagram はじめました

YOSHIDATOUBU

Follow me!

編集長のつぶやき

コロナ禍はこの春、感染法上の位置づけが季節性インフルエンザと同等になり、一律に求められた自粛要請がなくなるなど感染対策が緩和されました。WHOは緊急事態宣言終了を発表し、待ち焦がれてきた「**平時**」となりました。ようやく旅行や行事など様々な活動が再開されています。しかし専門家は、「依然、他の病気とは違う」とし、第８波は高齢者を中心に亡くなった方が２万８千人程と最多になりました。私たちまち協は、これからも地道に活動を展開してまいります。多くの皆さまにご参加いただき、様々なご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。（佐々木）

次回は令和５年９月１日発行予定です

令和5年度　役員紹介

役　職	氏　名	行政区	備　　考
会　　長	福　本　　眞	浜吉田北	区　長
副会長	三 品 正 明	新　　丁	区　長
	大堀由美子	浜吉田北	吉田地区民生委員・児童委員協議会
会計・書記	田 辺 直 正	浜吉田東	区　長
監　　事	渡 邉 政 彦	野　　地	区　長
	佐々木　寛	開 墾 場	区　長
理　　事	齋 藤 良 一	一 本 松	区　長
	小 野 清 一	長 瀞 浜	区　長
	鴫 原 邦 夫	大 畑 浜	区　長
	浅 川 浩 成	浜吉田西	区　長
	平 間 文 子	野　　地	吉田地区婦人防火クラブ連絡協議会
部会長	丸 子 常 代	長 瀞 浜	安全部会
	鈴 木 義 男	浜吉田西	元気部会
	田 代 宗 夫	浜吉田北	健康部会

令和５年度　年間事業予定

元気部会

５月30日（火）いちごジャム作り
６月３日（土）吉田浜海岸清掃
８月：ワークショップ
９月16日（土）吉田浜海岸清掃
１０月24日（火）料理教室～はらこ飯～
１２月16日（土）しめ縄作り体験教室
１月27日（土）新春お楽しみ演芸会
２月：料理教室　～ほっき飯～

健康部会

６月25日（日）健康講座
７月29日（土）吉田浜海岸
ウォーキング＆自然観察会

１０月　８日（日）ふれあい健康まつり
１０月２８日（土）長瀞たてわリンピック（運動会）支援
１１月　５日（日）吉田浜海岸ウォーキング＆自然観察会
３月17日（日）ふれあいスポーツ広場

安全部会

５月11～20日：春の交通安全啓発活動
５月２７日（土）普通救命講習会
９月21～30日：秋の交通安全啓発活動
１０月：防犯教室
１１月：いじめ防止キャンペーン
２月：防災教室
随時：通学路ストップマーク 点検・補修

“吉田のいちご No.4” ～収穫後の作業～

【最高においしい吉田のいちごができるまで】を４回シリーズでお届けしてきました。
シリーズ最終回もＪＡみやぎ亘理 いちご選果場にて、収穫後の作業や新しい苗作りについてお話しを伺ってきました。

床土の整理

① 収穫が終わった株は、根元から鎌で刈り取り田畑に廃棄して自然に返す。
② 床土は毎年交換せず、残った根を腐らせて、一緒に土壌消毒をする。
③ 次年産に向けて少なくなった所だけ床土（天然ヤシ殻培地）を補充する。

受粉で活躍したハチ

① ミツバチやマルハナバチは寿命が短いため死んでしまう。
② 巣箱は衛生上の問題から焼却処分する。

新しく親苗を育てる

① １１月頃に親苗を購入し育苗棟で育てる。５月頃に数本のランナー（つる）が伸びて、その上に子苗が出てくる。
② ７月中下旬頃、30～50 株に子苗が増えてきたら親苗から切り離す。
③ 子苗の成長を促すよう、秋の涼しさを感じさせるためにタ方から朝方まで《夜冷庫》に入れ、昼は太陽の光に浴びさせる。※３０日ほど続ける。

子苗の定植

① ９月上旬に発泡プランター（長さ 74 ㎝、幅 30 ㎝）に子苗（新苗）８株を２列で定植する。
尚、長い植床にしないで短いプランターを使うのは、病気が発生したときにすぐに交換対応できるよう、いちご団地建設時に関係機関と策定した亘理のオリジナル仕様だそうです。
新苗は 1,000 ㎡あたり約 8,000 株が必要で、大型ハウス(1,500 ㎡)の場合は,13,000～14,000 株が必要との事。

亘理オリジナル
発泡プランター

一年間を通し忙しいイチゴ農家さんですが、収穫作業と次年産の育苗作業が重なる５月～６月は特別な繁忙期と言えそうです。
イチゴ農家さんが丹精込めて作ったイチゴは贈答用として喜ばれ、ケーキの上に飾ればパッと華やいでとても幸せな気持ちにしてくれます。みんなが大好きな吉田のイチゴは沢山の方々に元気と笑顔を届けてくれます。
そんな夢のある甘～いイチゴを来年も楽しみに待っています。（若林）